

学校教育目標	「自分をのびし 友達と認め合いながら 地域とともに歩む」 1. 「知」 主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育みます。 2. 「徳」 自他を大切にし自分を律する態度と人を思いやる優しさを育みます。 3. 「体」 体力づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる力を育みます。 4. 「公」 地域や社会のために、まわりの人と協働する力を育みます。 5. 「開」 自分を見つめ、多様性を尊重し、共に生きていく力を育みます。				
	学校概要	創立 46 周年	学校長 伊藤 巖	副校長 松尾 哲博	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 358 人	主な関係校: 釜利谷中ブロック(釜利谷小、釜利谷南小)、大道中ブロック(大道小、朝比奈小、六浦南小)、六浦小			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	釜利谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自発的・主体的に行動する力 ～発信力～	釜利谷中 釜利谷小 釜利谷南小 高舟台小	人とのかかわりを大切に、集団の中で、 お互い認め合い、高め合おうとする子ども  ○「人とのかかわり」「生きるための学び」「心と命」を大切にしながら指導を、全校の教育活動で具現化するように相互の情報交換を充実させ、意図的な場面設定を図る。 ○児童・生徒の実態を把握して、「育成を目指す資質・能力」、「重点的取組分野」等に関する共通理解の推進を図る。 ○小中連携をさらに推進させて、小中合同授業研究会の開催や児童生徒交流日の充実を図る。 ○地域連携をさらに推進させて、地域行事や地域防災拠点訓練への積極的参加を図る。

中期取組目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもが活用可能な資質・能力を身につけていくことのできる教育活動を推進します。</li> <li>2. 子どもが自分や友達のよさを認め合い、自尊感情を高めることのできる指導や支援をします。</li> <li>3. ひと・まち・家庭・自然等とのかかわりを深める活動を推進し、子どものコミュニケーション力を高めます。</li> </ol>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①子どもが獲得した知識を活用できるよう、学習指導の内容や教材を学年内で共有する。また、中・高学年で教科担任制を実施し、低学年でも一部教科分担任制に取り組み効果的な指導を行う。②協働的な学習の場を積極的に取り入れ、子ども同士の関わりを増やすことで、自分の考えや友達の考え方のよさに気づきながら思考力を伸ばす授業づくりをする。
担当 重点研究会	
徳 豊かな心	①YPアセスメントと横浜プログラムを活用し、一人ひとりの子どもに寄り添った指導・支援を継続し、互いに認め合える温かい学級風土づくりを進める。②道徳の授業において、子どもが主体的に考え、道徳的価値をとらえることができる授業を目指す。③自らあいさつできる子どもの姿を目指し、地域と協働してあいさつ運動の取組を継続する。
担当 人権・児童指導部	
体 健やかな体	①体育の授業や運動委員会の児童の活動を通して、年間を通して様々な運動に親しむ環境を整える。②食育部を中心に、給食目標や給食週間を設定し、好き嫌いなく食べることの習慣を身に付けたり、食の大切さを考えるための取組を実施する。
担当 体育部・食育部	
公 開 地域連携	①学校運営協議会と連携し、地域・社会とつながる学校づくりを進める。②コロナ後も感染症対策を十分にとったうえで、地域の人と関わる機会や方法を工夫し、地域とともに歩む子どもを育てる。③生活科や総合的な学習の時間では子どもの実態や願いを明らかにしながら学習を展開していく。また、地域の「材」について、子どもたちが主体的に関わったり取り組んだりできるように教材研究を進める。
担当 教務部・外部連携	
いじめへの対応	①児童・家庭・地域の実態を把握し、児童が安心して力を発揮できる集団を育てることで、いじめの未然防止に努める。②いじめ防止対策委員会を中心とした全職員による情報共有と、早期対応、確実な事後指導を組織的に行う。③アンケートや教育相談を定期的に行い、児童が相談しやすい環境を整える。
担当 人権・児童指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①教員がゆとりをもって取り組むことが子どもの活動の豊かさにつながると考え、持続可能な働き方のできる職員室を目指していく。業務改善に取り組み、午後の時間を明日の準備に充てられるようにする。また、教科担任制やチーム学年経営により、効率的に授業準備に取り組めるようにする。②ブロック経営という視点を生かし、若手教員の育成に学年内だけでなく学校全体で関わっていく。
担当 教務部	
コミュニケーション能力	①たてわり活動を通して他学年と関わる経験をすることで、コミュニケーション能力を育てる。②なかよしフェスティバル等、様々な場面で自分の考えや学習したことを伝える活動を通して、自分の考えを効果的に伝える方法を学ぶ。③子どもたちが自発的に発信したい、相手に伝えたいと思えるように、教師自身が教材開発の面白さを感じながら学習内容や展開の工夫をする。
担当 特活部・総合部	
考えて行動する力	①日々の授業で、見通しをもったり、自分の考えをもったりすることができるような指導・支援を継続する。②児童が必然性をもって考えたり発信したりする姿を目指した授業の工夫をする。
担当 研究部	
児童生徒指導	①「こども手帳」の内容を中心に指導事項を共通理解し、一貫性と継続性のある生活指導を行うことで、児童が落ち着いて学校生活を送れるようにする。②YPなどを活用し、児童の自己肯定感を高めるとともに、児童が安心して力を発揮できる集団を育てる。③研修を通して、組織的に児童の課題に適切な指導・支援を行う力を高める。
担当 人権児童指導部	
特別支援教育	①特別支援教育委員会を中心に、支援を要する児童の実態を丁寧に把握し、個に応じた支援の在り方を考える。個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用の仕方についての共通理解を図る。②特別支援教室を有効に活用し、集団不適応や登校しぶりなど課題のある児童への支援と指導を継続的に行う。③支援を要する児童が、安心して学習に参加できるよう、授業や教室環境等の改善を行う。
担当 特別支援教育委員会	